くまもと障害者労働センター通信

ウィズ ～ともに～

WITH

復刊 第8号
2014.07.07
since1985

おれんじ村

発行：社会福祉法人 くまもと障害者労働センター　〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-5-40
TEL:096-382-0861　FAX：096-285-7755

はじめまして。『おれんじ村Inc(インク).』です。

目印は「おれんじ村」ののぼりです。

～おれんじ村 Inc. で村おこしを～

本年４月より、熊本市の指定を受け特定相談支援、障害児相談支援、一般相談支援の事業を開始しました。

労働センターの設立当初より大切にしてきた『障害があっても当たり前に暮らすことのできる地域づくり』の拠点として、おれんじ村 Inc. は活動を進めています。

現在 16 名（5 月 20 日時点）の方より相談があり、地域生活の中で抱える悩みなどたくさんのことを教えていただきながら、学ばせてもらっています。地域の抱える課題を知ることで、おれんじ村（くまもと障害者労働センター）として何ができるか考え、解決するための新たな事業を興していけたらと勝手に思っています。　野尻 健司

特定相談支援、障害児相談支援

・障害者(児)の自立した生活を支え、障害者(児)の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けたお手伝いをします。

一般相談支援

・施設や病院からの退所・退院に向けたお手伝い、施設や病院から退所・退院した人、家族との同居から一人暮らしへ移行した方への継続したお手伝いを行っています。

託麻台病院さんで月１販売してます。

４月から月に１回、託麻台病院さんの売店前で定期販売でお世話になることになりました。ありがとうございます。以下、販売部よりです。

『初めて託麻台病院さんに販売に行きました。託麻台病院はとてもきれいで、売店が大きくて驚きました。接客や会計が間に合わないほどたくさんの医師・看護師の方々に来ていただきましたが、病院の関係者の人達のなかではうちのメンバーは人気者というか…みなさん有名人でした。(笑)

入院中の患者さんも、今から入院するという方も立ち寄ってくださり、「病室のみなさんとおいしくいただきます」といって頂きました。たくさん商品を持っていきましたが、売り切れ続出！！なかでも、かりんとう・くるざーた豆が大人気で驚きました。ありがとうございます！！次回は、大きいシフォンケーキを持っていきたいです。

販売部では定期販売をさせて頂ける事業所さん・病院さんなどを募集しています、ぜひご紹介ください！』

NEW!

焼かりんとう『抹茶』新発売。

さわやかなお茶の味で
初夏を感じられます。

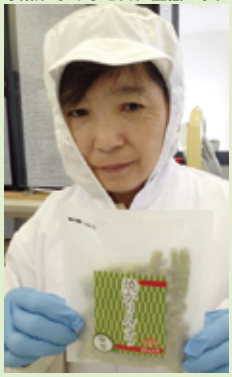
お茶菓子にもぴったりです。

カテキン効果で老化予防等、
女性には嬉しい効果が
たくさんあります。

ぜひご賞味下さいね！！

製造部一同。

表紙にすみません。宣伝です。



共同連全国大会
熊本大会
関連イベント

全国弁論大会&研修報告

5月 31 日～6月2日の３日間、共同連全国弁論大会＆研修会が東京でありました。労働センターからは 4 名参加。そのうち、販売部の松村紀幸さんとカフェ部の松尾芳美さんが熊本大会での発表の予選も兼ねた弁論大会にエントリーしました。発表の内容はブログに全文掲載していますので、よかったらそちらもご確認くださいね。以下、研修レポートです。

久しぶりに共同連の研修に行ってきました。

三森加代子

今回、勉強して来て思ったこと・感じた事は、やっぱり障害者が働くのは非常に厳しいという現実があるけど、そんな中でも全国の共同連に関係する事業所では、障害者が働きやすいように、**みなさん工夫してる**んだということです。特に印象的な事業所だったのは、滋賀県にある**「くれおカレッジ」**という事業所です。「くれおカレッジ」さんは、障害者が働くために、大学式で学ぶ学校です。やはり私もそうなんですが、障害者の人は健常者の人と比べて知識も少ないし、いろんな経験も少ないし、さらに体にハンデがあるので、**働く前に一つワンクッション**置いて、時間かけてじっくりと色んな事を学べる場所があった方がとてもいいと思います。

なぜそんなことを思ったかというと、私の勉強してきた環境にあります。私は小・中と地域の普通学校に行きました。でも、小学生の時にあまり勉強をさせてもらえなかったので、中学生の時に頑張って必死に勉強しましたが、少し勉強が追い付かず、高校から養護学校に行きました。出来るなら普通高校に行きたかったです。そんな中、高校を卒業して障害者の職業訓練校に行きましたが、経験も少ないし知識も少なくて、あんのじょう他人を傷つける言葉をいっぱい言って後悔しています。出来れば今の若い子達には**経験が少ないせいで、私みたいな嫌な経験をして欲しくないのです。**だから、「くれおカレッジ」さんみたいに、気軽に体験ができて色々と経験が出来る場所が増えるといいなと思います。でも現実をみるとそういう場所はまだまだ少なくて、高校を卒業して働く人が多いと思います。だから正直話を聞いてて悲しくなりました。

それから、いろんな事業所が同じ思いで悩んでました。どうやったら障害者・健常者関係なく、**お互いに助け合いながら仕事ができる**か。どうやったら、平等な給料が渡せるのか・・・。台湾の人の話も聞けたので良かったです（台湾でも障害者がどうやったら就職できるかを悩んでました）。

●初めて電動でエスカレーターにのりました。

今回の研修に参加するまでは、正直言ったら自分的には「私、結構重要な仕事をしてるのに、なんでこんだけの給料しか貰えないんだろう」と思ってました。でも今回の話を聞いて、台湾とか日本とか関係なく、健常者と呼ばれる人はつねに障害者がどうやったら働けるかを必死に考えてて、楽しく仕事ができるように工夫してくれてるんだなと嬉しくなりました。逆に今まで私たちの事を考えてくれてるのに、**私は不満ばかり持ってた**のかなぁーと思いました。だから私はお金の事よりも、皆で協力して楽しく仕事をすることが大切だなぁと感じました。でもやっぱりお金も欲しいです。

今回共同連研修会に行かせて頂きましてありがとうございます。とても勉強になりました。

共同連全国研修会に参加して

野尻　健司

東京で開催された共同連全国研修会の弁論大会に労働センターから２名が弁士として参加しました。私は、昨年の全国大会で発表をしたので今回はお役御免てな感じで２人の発表をゆっくりと聞こうと軽い感じで参加しましたが、労働センターの２人の発表とその他全国の７組の発表を聞き、私たち**労働センターが抱える課題と重なる**部分が多く、弁士の語りに熱心に聞き入っていました。

その中の滋賀県共生シンフォニーの障害者の大学くれおカレッジを創設するという取り組みは、健常者がモラトリアムを過ごすように、障害者のモラトリアムがあっていいじゃないかという課題が提起され、大変興味深い話でしたが、くれおカレッジの取り組みについてはまた別の機会に報告したいと思います。

今回の研修会に参加して、『共に働くこと』の明確な答えが見つかったということはありません。しかし、共に働くことについて、どのように労働センターとして、また、私自身として考え、実践していくのかヒントを得たというのが今回の研修での学びです。研修では全国の８組の発表を受け、①発表の良かったこと、感想②共働を別の言葉で言い換えると③利用者と職員と分けられることについて、の３点をグループに別れワークショップ形式で話し合いを行いました。私は、ワークショップをあまり経験したことがなく、どうなるかなぁと心配しましたが、そこには**障害のある人ない人、また、経験の長い短い関係なく、互いに自分の想いを語り話し合っている姿**があり、誰もが対等な立場で意見を出し合い運営に参加するという労働センターが大切にしてきた雰囲気に似て楽しくもあり、熊本に戻ってまたがんばろうという力をもらいました。ちなみに、私の入ったグループでは、共に働くことは**給料をどう分配する**のかということが重要という意見がでました。多くの事業所が、事業だけでの経営が難しく給付費に依存し

ている状況で、働く人の給料を、障害のあるなしだけでなく、さまざまな生活の状況を勘案しながら設計していくのか、　簡単なようで難しい課題にどのように向き合うのか考えさせられました。お金を稼ぐことに追われる日々を見つめ直し、労働センターでの共働をどのように実現していくのか、みんなで語り合いゆっくりと時間をかけながら、労働センターらしさというか、独自の共働の姿を自らで創り上げていくことの必要性を感じました。

労働センターの弁士２人の発表について報告します。松尾さんの発表では、自分が考える共働が独りよがりで相手に押し付けてしまっていたことを、労働センターのみんなとのかかわりの中で気づき、自分の中の共働を見つめ直し葛藤しながらも、やはり労働センターのみんなとのかかわりから、新たにみえてきた共働のカタチについて語られました。彼女が抱える悩み、葛藤、それでも共働を追い求めようとする姿に、**多くの参加者が自分の姿と重なり心に響く発表**でした。

のりさんは、学生時代に障害があることで同級生との関わりの中で傷ついた出来事や、通常学級から支援学級に転籍する際の想いを語ってくれました。そして、最後に自分の夢を堂々と真剣な眼差しで話す彼の姿に、**自分ものりさんと一緒に夢をみてみたい**、労働センターで一緒にできないかと彼の想いに心惹かれる自分がいました。のりさんの発表から、一人ひとりの夢を実現すること、応援できることも労働センターにしかできないことではないかと考えさせられました。また、労働センターでやれたらええなぁと思います。

今回の研修で感じたことは、ゆっくりと時間をかけながら労働センターで働くみんなの想いを語り合うことの大切さを感じました。でも、３０人以上が一緒に語り合うことは、難しいように思います。ワークショップ形式で、少人数のグループに分かれて話し合うことも試してみたいなぁと思いました。８月の夏季休業の前後にでも、みんなでやってみませんか。みなさんご検討ください。

今回、研修への参加という貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

共同連全国大会
熊本大会
関連イベント

誰もが働きやすい社会を目指して～いいね！新しい働き方～

プレ大会 in 久留米 報告

６月２３日、共同連全国全国大会熊本のプレ大会が久留米で開催されました。『労働市場から排除される人々の包摂に取り組む「社会的事業所」の実態と可能性 』と『共同連の提案する福祉的就労でも一般就労でもない、第三の就労「社会的事業所」とは 』と２つのテーマの講演と福岡で活動している事業所を中心にシンポジウムがおこなわれました。

共同連全国大会プレ大会に参加して

富野香代子

６月２２日に久留米商工会議所にて行われた、「誰もが働きやすい社会を目指して　～いいね！新しい働き方～」に参加してきました。

私は労働センターで働き始めて３年近くがたちますが、今まであまり共同連の研修等に参加できず、久しぶりの参加となりました。

当日は約６０名の方が参加されており、とてもにぎやかな会となりました。

プレ大会の内容は３部構成で、明治学院大学の米澤亘氏、共同連事務局長の斎藤縣三氏、しゃべり場と題してシンポジウムがありました。制度の面から働きやすい社会を目指すための実態と可能性を海外や滋賀の例を織り交ぜながらのお話や、共同連のはじまりや目的、どういった想いで共同連が作られたのかなど、学生時代に戻った気分で聞き入りました。

これらの話を聞き、私自身、普段は日常業務におわれ、それをこなすのが精一杯の日々でしたが、一度立ち止まり“共に働く”こと、労働センターで働くみんながどんな想いでいるのかを知ることがとても重要だと感じました。私も制度や難しい話は分からないし、共働・共生を語るにはまだまだ早すぎると思いますが、共に働く上で疑問に思うことはどうしてこうなるのか？と言えるようにならなければいけないと思います。そのためにも共同連を通じさまざまな人たちの知識を吸収し、共に働き学んだことを活かせるようにしていきたいです。

また、９月に行われる全国大会でもしっかりと知識を習得し、いろんな人に伝えていけるよう、自分自身の深化を図りたいと思います。

本番も緊張するかな

永坂光蓉子

大会の感想は話を聞いたけど、難しかったです。販売もしました。販売の説明をしたとき、お土産にいかがでしょうかってアピールしようと思ったけど言えなかったです。焼きかりんとうがもうちょっと売れればよかったなーと思いました。

交流会にも参加しました。おなかがいっぱいでご飯は食べられなかったです。知らない人がいっぱいいて緊張しました。

医療的ケアを必要とする子ども達の豊かな学校生活を願う親の会
『虹色の会』発足記念講演会

堀教授の基調講演

「共に生きる社会は共に学ぶことから」労働センターの理念の1つです。
それは、障害者権利条約の批准、昨年の差別解消法の制定をうけ、
「尊重されるべき基本的人権」として法的な裏づけをもつこととなりました。
しかし、地域に少し目を向けると、まだまだ解決されるべきたくさんの課題があります。
そんな課題をみんなでクリアしていこう、とひとつの会が発足されました。
今回は、その『虹色の会』発足記念講演会の様子と共に、
代表の住谷さんより、現状と願いをアピールして頂きました。

虹色の会　代表　住谷理香

医療的ケアを必要とする子ども達の豊かな学校生活を願う親の会『虹色の会』、会長の住谷理香です。先日６月２８日に熊本学園大学にて行った発足記念講演会には１２０名以上の方々に来ていただきました。その日を迎えるまで本当にたくさんの方々に支えていただき励ましてもらい無事に終えることが出来て、感謝の気持ちで、いっぱいです。私たちの子ども達は様々な障がいを持ち、様々な医療的ケアを受けながらも毎日を一生懸命生き、一人一人が、それぞれ素晴らしい光を放っています。毎日の学校生活も仲間と過ごせる一日、一日が本当に大切で、同年代の仲間たちと過ごすからこそ、この子たちの命を更に輝かせていると思います。

今日の医療技術の進歩に伴い、医療的ケアを受けながら学校に通えるようになった子ども達も増えて来ています。しかしながら、この大切な学校生活の様々な場面で未だに医療的ケアが必要なこと、『何かあったら？』などの理由で、保護者の付き添いが強要されたり、付き添いが出来ない場合は、子どもの学校生活が出来なくなるという事態が発生しています。

開会の挨拶。

子どもは社会を営む、まず第一歩として学校の中で同学年や他学年の仲間と共にいろいろな経験を積み重ねながら成長していきます。医療的ケアを受ける子どもについても全く同様です。医療的ケアが必要なことを理由に学校に通えなかったり、学校生活の中での様々な活動を制限されたり、また保護者の付き添いが登校の条件となるような差別や不利益があってはならないのです。学校で過ごす数年間は、先生と子どもたちで作り上げていくもの。仲間の大切さや、自分が普通であることが、どんなに素晴らしいことか、一緒に過ごすからこそ、学び考える。この経験は家族だけでは、決して手に入れることは出来ません。

『学校に行きたい！』『みんなと一緒がいい！』という、この子達の切実な思いを、一人でも多くの方に知ってもらいたいと思います。学校に子どもが合わせるのではなく、障がいがあろうと、なかろうと、子どもに合った学校が増えますように…。どんな子どもでも、親が頑張らなくても、当たり前に学校生活を送り、仲間と共にキラキラと輝いて生きていけますように…。そんな思いでこの会を立ち上げました。これからも、支え励まして下さっている皆さんと共に声をあげて、いつかそんな日が来ることを心から願い、声をあげていきたいと思います。

親の立場から、さまざまなケースを報告してくださりました。

カフェ部　宮守文美子

私が学生のころ、医療的ケアを必要とする子どもたちと一緒に勉強することがなかったため、「医療的ケア」とはどういう意味か疑問でした。人工呼吸器をつけて生活する子どもたち、でもチューブが抜けたら即窒息！普通に生活できるが、命の危険があるという両極端。でも地域の学校に行きたいと思う子どもと親の気持ちが強いが、通うなら保護者付き添いでないといけないといわれる学校が多いそうです。いろんな障害児がいます。その中で、「親と子どもが、地域の学校に行きたいと思う気持ちを尊重しなければならない」と参加者に伝える学園大の教授。そのためには、学校は受け入れる準備をしなければならないし、先生、看護士、教育委員会の方たちと信頼関係を作っていかなければならないと思います。

たくさんの子ども達も参加していました。

難しいかもしれませんが、子どもの思い、親の思いを伝え続け、少しずつ、一歩一歩光に向かっていきたいですね。保護者からの報告など、具体的なことが色々聞けて、参加してよかったです。

ＩＴ部　藤堂健司

「医療的ケアの必要な子ども」という言葉でひとくくりにされますが、そこには1人ひとりの違ったニーズがあると思います。そして、それと同じだけの幼少期に育まれるはずの人間関係、その延長線上の享受できるはずの人生に対し、誰が責任をとれるんでしょうか。この日、開会の挨拶をした女の子は、たくさんの「なぜ？」を会場の大人たちになげかけました。当然その大人たちの中には僕も含まれています。障害者権利条約や差別解消法をちょぴっと勉強して、わかった”つもり”の「正当な権利」と、それを要求する側にいた”つもり”。この”つもり”は彼女に壊されました。正面からこの権利を擁護しようとしない大人は、彼女にとって差別する側の人なんじゃないか…なんか心がざわざわするけど、俺どうする？と今さらながら感じました。ここにいる１００名以上の大人たちが「お前らどうすんの？」とつきつけられたわけです。さて、どうしよう。これから虹色の会さんは署名活動を始めます。まずはこれを一緒にさせてもらおうか。いやいやもっとたくさんの個別の話を聞かせてもらって現実を見つめなきゃ…俺なんかにもっと話をきかせてくれるだろうか。もっと知りたいです。俺知りたいです。

「在宅医療を支える会」緒方さんが医師の立場からの報告。

皆様のあたたかいお気持ちをお寄せいただきました!!

『共生ホーム　元気』は、自立生活を体験できる場としてだけでなく、障害者の住まいの場を確保することを目的として、4 月から事業をスタートしました。多くの方々よりご寄付をいただきました。紙面に掲載しお礼に代えさせていただきます。ありがとうございました！

ありがとうございました。

寄付金

桑本　謙　様
田尻　雅美　様

物 品

秋津レークタウン
生き活き夢くらぶ　様
井崎　靖子　様
一甲　宜男　様
木村いく子　様
くまもと支援の会　様
倉田　哲也　様
源川　友子　様
小崎　様
小林ゆうき　様
高村　恭弘　様
藤堂　健司　様
永坂　純子　様
新名　弥生　様
花田　昌宣　様
松井　蔦恵　様
松尾　芳美　様

５０音順

初体験　泊まってみました。

金森央祐

僕は、５月に共生ホーム元気という所に野尻さん・松村のりさんと３人で泊まりました。夜ご飯はたこ壺という店で食事をしました。とても美味しかったです。お店を出てそのあと、マックスバリューで夜食の買い物をして、共生ホーム元気に帰ってから、マックスバリューから買ってきた夜食を食べました。楽しかったです。初めて家から離れてみて、一人で生活するのは、大変だなーと思いました。

おれんじ村の実習広場。

今年もたくさんの実習生が来てくれています。
新鮮な空気をくれる大切な存在です。

吉本春菜子さん

先日の現場実習はたいへんお世話になりました。私はチキンライスを作りました。料理をはこびました。オレンジカフェの仕事は楽しかったです。ありがとうございました

北神飛翠さん

現場実習では、たいへんお世話になりました。カフェの店員では、いらっしゃいませを大きな声でいいました。おかし作りでは、はんどみきさーできじをまぜました。きじをまるめてならべました。給食がとてもおいしかったです。２００円でした。はんばいでは、東町分教室に行きました。帯山中学校・小学校に行きました。たのしかったです。あいさつをしっかりがんばったので、ほめられました。新名さんにはいろいろなことをおしえていただきました。ありがとうございました。また実習に行きたいです。

高木麻由さん

現場実習では、大変お世話になりました。一番楽しかったのは、おかしのふくろづめです。コーヒーをこぼさないようにおきゃくさんにだせてうれしかったです。はんばいの時きんちょうして大きな声がだせなかったです。重いにもつをもってはんばいに行くのは、たいへんでした。これからは体力をつけたいです。あいさつも頑張りたいです。

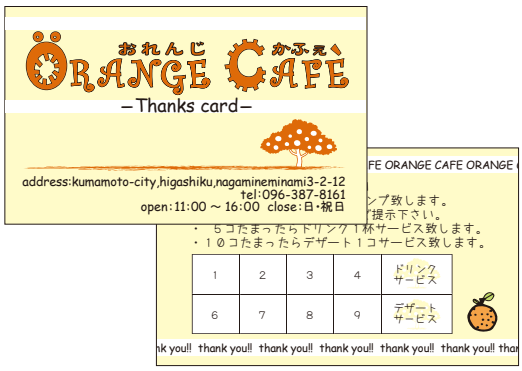
岩尾まさしさん

クッキーを入れていて落とした時にスタッフから大丈夫と言われてたすかりました。販売はいろいろ行けて楽しかった。遠く行けてよかった。IT部では自己紹介を自由に書けて面白かった。おれんじカフェに行って、買い物とたまねぎ・にんじん・じゃがいもの皮むきをした。にんじんの皮むきではどこが皮か分からなかったがだんだん分かってきた。じゃがいもは持ちにくかったが、手を切らなくて良かった。買い物はメモどうりに買うのが楽しかった。皮むきは久々にやって楽しかった。おれんじカフェのよいカフェに行って雰囲気が良くて食事も美味しくてよかった、特に僕はかきあげが好きだった。とても楽しい一週間でした。また、ためにもなりました。みなさん、ありがとうございました。

おれんじ ORANGE かふぇ CAFE 通信

ポイントカードの巻

ORANGE CAFE



ORANGE CAFEにも、ついにポイントカードができました。
３００円で１回スタンプを押させて頂きます。

５コたまったら、ドリンク１杯サービス。
１０コたまったら、デザートセットを、１セットサービスいたします。

日頃より、ご利用いただいている皆様への『ありがとう』の気持ちと・・・。

初めてご利用していただく方への『またのご利用を』の願いをこめて・・・。

お世話になっている、亀山社中の川口さんから、カードの台紙を提供して頂きました。
お礼はスタンプ２つ（笑）。いつも助かります。感謝です。

であい ふれあい わかりあい

交流事業は労働センターの大切な仕事のひとつです。県下の小・中学校が主ですが、呼んでいただければ可能な限りどこへでもおじゃまします。感想を送ってくださった中から、一部紹介させていただきます。

みんなと同じこと　ができなくても、みんなと同じいのちです。どんな人でもみんな同じいのちです。体が不自由な人がたくさんがんばらないといけないわけではなく、みんな同じようにがんばらないといけないと思います。みんな一人ひとりちがいます。なので、みためでできるできないをきめてはいけないと思います。あることは、できないかもしれないけど、ほかのことはできると思うからです。今日は、本当にありがとうございました。

わたしは、小さいころに車にひかれて、それからは、足をかくすようになりました。ずっとみられるのがこわくて見せられませんでした。けどくらたさんは体が不自由なことやあんまりしゃべれないことをどうどうと見せれてすごいなと思いました。だからわたしもくらたさんみたいな、どうどうと見せれる人になりたいです。

最初は「障害のある人のことをどう思うか」について、私は「体が不自由な人、体を思いどおりに動かでない人」と思っていたので、できないところをサポートしたいと思っていました。でも倉田さんの話をきいてできないところをサポートするだけでなく障害がある人が暮らしやすくすればいいということを学びました。例えば、お話があったバリアフリー自動販売機、私は初めて見ました。こういうものが町中、国中にふえるといいと思います。

見学大歓迎です。

ようこそ 花田ゼミのみなさん

先日、熊本学園大学の花田ゼミの学生さんたちが、おれんじ村、ORANGE CAFE、おれんじ村 Inc.、共生ホーム元気と、くまもと障害者労働センターの全事業を見学にきてくれました。

『この日は、若い人が来るとあって、おれんじ村のみんなはそわそわ。製造部のお仕事は、川元さんと山形さんより説明しました。仕事以外にも、川元さんは自分の一人暮らしの事も話して下さって、学生さんたちも熱心に聞いてくれていました。やっぱり 若い人に『おれんじ村』を知ってもらったり、生活の事を知ってもらう事って大切だなーと思いました。これからも、見学・実習にたくさん来てほしいなぁ。』新名弥生

『せいかつは１人でしています。そうじやせんたく、かいものにいきます。かいものへ行く時は、少しぐあいがわるくなってたおれて、またけがをするので、いすのついているごろごろをもっていきますよ。しごとはさーたーあんだぎーとかりんとうを山形さんといっしょにやってきましたよ。見学の時はたのしかったですよ。しごとがみつからなかったらここではたらいたらいいですよ。またきて下さいね。』

川元洋子

お礼とお願い

私たちの共働事業は、障害のある人もない人も一緒に働いて、厳選した材料を使用し、安全なお菓子を製造し、皆様のお手元へ届けることで成り立ちます。

この３か月で、延べ531か所の事業所やイベントで販売をさせて頂きました。厚く御礼申し上げます。いつもごひいきにして頂き、ありがとうございます。この号が出ている頃には、夏のギフトのご提案ができていると思います。皆様の夏のご挨拶のお役にたてたら幸いです。どうぞよろしくお願いします。

製造部＆販売部

編集後記

みなさんこんにちは、IT部の藤堂です。この８号の発行が、僕の労働センターでの最後の仕事となります。在職中には大変お世話になりました。紙面上ではありますが、たくさんの方にお礼申し上げます、ありがとうございました。

８号は通刊では久しぶり、復刊してからは初めての６ページ編成となりました。新事業の開始、共同連関係、実習や見学、そして「虹色の会」さんが発足したこと。たくさんお伝えしたいことがありました。特に「虹色の会」さんの記事は会長の住谷さんに寄稿頂き、これからのMITIの在りかたの方向性に、新しい道ができたかなぁと思っています。そんな復刊８号を担当できてうれしかったです。今後も、労働センターのことだけではなく、いろんな情報をお届けしていけると思いますので、くまもと障害者労働センター・「MITI」をよろしくお願いします。

IT部　藤堂